

平成29年度
英語教育強化地域拠点事業
＜県指定＞公開授業研修会



会場校：太田市立旭中学校

拠点地域（太田市）と旭中学校の研究主題

生徒の夢や希望に向かって歩む力を育むキャリア教育の充実
～自分の思いや考えを生き生きと発信する活動を通して～



太田市の
おおたん
です！

意見や考えを伝え合う生徒の育成の 基本的な考え

- ▶ 外国語科の一番の目標は、「生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成」であり、実際に英語でコミュニケーションをすることによって育成される。
- ▶ 事前に準備した原稿をそのまま読んだり、暗記したことを発表したりするだけでは、このような能力は十分には伸ばすことができない。そのため、「自分の意見や考えを英語で相手に伝えることができた」「相手が英語で表現していることがわかった」と思えるような言語活動を取り入れ、工夫することを研究の主題とした。
- ▶ 自分の思いや考えを生き生きと発信するために、「相手意識」のあるコミュニケーションを行うこととする。
- ▶ この考えは、「学教教育の指針」（群馬県教育委員会）の英語科の重点でもある。

即興的に伝える活動を重視した授業内容 の工夫とは？

- ▶ 即興的に伝える活動は、事前に原稿等の準備をせず、写真やウェブサイトをたよりにしながら意見や考えを伝える活動と考えた。
- ▶ 生徒たちの将来はグローバル化がさらに進み、外国での生活はもちろん、日本においても英語を使ってコミュニケーションを図る機会が増えてくる。
- ▶ 間違いを恐れずに、意見や考えを相手に伝える活動を「即興的に伝え合う活動」と捉え、意図的に単元計画に取り入れることで、コミュニケーション能力を高めることをねらいとしている。

公開授業の構想

授業づくりで大切にしたこと

旭中学校英語科の目標

既習事項を活用し、
相手との関わりを大切にしながら、
思いや考えを互いに伝え合うことができる
生徒を育成する

目標を意識した単元構想

- Can-Doリストの活用
- 単元目標を意識した、単元計画

目標達成に向けて授業づくりで大切にしたこと

1. 「相手意識」を大切にしながら、即興的に思いや考えを伝え合う活動の設定
2. 英語を使う必然性のある場面設定
3. 5領域を統合した活動の設定
4. 教師と生徒、生徒と生徒のインタラクション
5. 学習形態の工夫
6. 振り返りの工夫
7. 小中連携を意識した指導の工夫

1. 「相手意識」を大切にしながら、即興的に 思いや考えを伝え合う活動の設定

①旭中英語科の目指す「相手意識」

小学校外国語活動から中学校卒業時までを見通して、
段階を追って身に付ける相手意識を明確化した

- Add Own Ideas
- Ask Questions
- Response
- With Feelings
- Clear Voice

1. 「相手意識」を大切にしながら、即興的に 思いや考えを伝え合う活動の設定

①旭中英語科の目指す「相手意識」 (学年別段階表)

平成29年度 太田市立旭中学校

コミュニケーションの段階表

【卒業時の目標】

既習事項を活用し、相手との関わりを大切にしながら、思いや考えを互いに伝え合うことができる

				既習事項を活用し、相手との関わりを大切にしながら、思いや考えを互いに伝え合うことができる	【表現】
	自分の身の回りのことについて、紹介したり応答したりすることができる	日常生活の身近な話題や将来のことなどについて、自分の思いや考えを伝え合うことができる	社会的な話題について、情報を交換したり自分の思いや考えを伝え合ったりすることができる		
簡単な英語を用いて、進んで思いや考えを伝え合うことができる	○With Feelings ○Clear Voice ○Response	○Ask Questions ○Response ・With Feelings ・Clear Voice	○Add Own Ideas ・Ask Questions ・Response ・With Feelings ・Clear Voice	相手との関わりを大切にしながら、コミュニケーションを図ることができる	【コミュニケーションスキル】
・Smile ・Listen Carefully ・Clear Voice ・Gesture					
小学校	Grade1	Grade2	Grade3	卒業時	

学年ごとに身に付けさせる表現力とコミュニケーションスキルを明確化した

1. 「相手意識」を大切にしながら、即興的に 思いや考えを伝え合う活動の設定

②即興的に思いや考えを伝え合う活動

- 帯活動(Communication Time)

ペアやグループで、テーマに沿って即興的なやり取りをする活動を継続的に行った

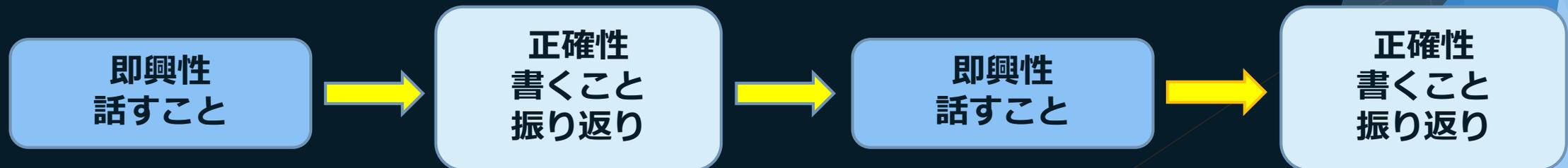
- できる限り実際の場面で行うやり取り

- 教師と生徒、生徒と生徒のインタラクション

1. 「相手意識」を大切にしながら、即興的に 思いや考えを伝え合う活動の設定

③即興性と正確性について

- ▶ 意見や考えを伝え合う活動では、**即興的に英語でやり取り**することが必要である。正確性については、段階的に高める必要がある。
- ▶ **即興的にやり取りをした後で、話した内容を書く**活動を取り入れる。間違っていたことを修正したり、言えなかったことを書けるようにしたりして**振り返り**を設定する。
- ▶ 「話す→書く→振り返る」を継続して行うことで、文構造の正確性に気づかせるとともに、言えることを増やしていくことが効果的である。
- ▶ 英語でのコミュニケーション能力を図る**パフォーマンステスト**を実施する。



2. 英語を使う必然性のある場面設定

公開授業における各学年の場面設定

1 学年：市内のALTに日本の遊びを紹介する

2 学年：旭中について、旭小の児童に紹介するビデオをつくる

3 学年：自分の一番大切なものについてスピーチをする

実際の場面やコミュニケーションの相手を意識したやり取りやスピーチ等を単元の最後に行うことを見据えて、授業構想を行った。

3. 5領域を統合した活動の設定

「やり取りやスピーチなどを聞いて、質問したり意見を言ったりする」「話したことを書く」といった活動を継続して行った

3学年での例：「大切なもの」についてやり取りをしたことを書く（「話したことを書く」）



大切なものについてのやり取り

やり取りを通して、マッピングメモに新たに付け足した考えや情報を英語で書こう！

I was shocked with ^{the} picture about home in Cambodia. I feel happy because I can live in my house and I can enjoy my life.

やり取りを通して、マッピングメモに新たに付け足した考えや情報を英語で書こう！

They make me happy ^{with} ~~to~~ playing ^{together} and to talk with them. I can enjoy school and make great memories. So I think friends are important to my life.

やり取りをしたことを書く

4. 教師と生徒、生徒と教師のインタラクション

教師生徒間のインタラクションを大切にし、**生徒の「表現したい」**
思いや考えを活用しながら授業を進行する



「日本の伝統的な遊び」について、生徒とやり取りをしている場面（1年生）



「学校紹介の例として、給食や行事」について、生徒とやり取りをしている場面（2年生）



「カンボジアでは家族と一緒に過ごせない子どもがたくさんいるという現状」について、生徒とやり取りをしている場面（3年生）

5. 学習形態の工夫

生徒の実態や活動内容に合わせて学習形態を工夫した



ペア

即興的なやり取りを行う。



3人グループ

紹介役1名、質問役2名に分かれて紹介活動を行う。



4～5人グループ

一人ひとりがやり取りで得た情報をグループのメンバーに共有する。その後、自分なりの考えを書く。

6. 振り返りの工夫

- 全学年で振り返りシート（Reflection Sheet）の形式を統一
- ねらいに即した振り返りを行い、次時の学習への意欲を持たせる
- 即興的に話したことについては、振り返りで書かせて、フィードバックをすることで正確性を高める

7. 小中連携

小学校では、「音声指導」「場面設定」「相手意識」を大切にした授業をしている。これらを中学校でも引き継ぐために、次のことを心掛けた。

- ・ **音声指導**... 単語や言語材料を定着させるためには、まず聞いたり話したりする音声面での言語活動を行った。その際、リズムやテンポに合わせて、楽しみながら行えるようにした。
- ・ **場面設定**... 英語を使う必然性のある場面を各学年で設定した。
- ・ **相手意識**... 小学校で定着した相手意識を引き継ぎ、さらに発展させられるような指導を行った。

パフォーマンステスト

パフォーマンステストで話す力を評価する

- ▶ 授業の言語活動の中だけで、一人一人がどれだけの内容や量を話しているのかを見取るとは大変難しい。そこで、到達目標を踏まえたパフォーマンステストを定期的の実施し、達成状況を評価していく。
 - * 昨年度より旭中では、定期テストの点数にパフォーマンステストの点数が含まれるようになった。
- ▶ 生徒にとって、「英語で～できるようになった」と達成感を味わえるように、到達目標を達成できるような授業を計画し、授業中に発話や練習の時間を確保することが大切である。（単元で行った活動内容を十分に踏まえて、パフォーマンステストの課題を設定する）
- ▶ A L T と連携をして、役割を明確にすることも大切である。



公開授業研究会

班別協議のテーマ

本時のねらいや伸ばしたい（身に付けさせたい）資質・能力に対する
「手立て」の有効性について

本時のねらいや伸ばしたい（身に付けさせたい） 資質・能力に対する「手立て」の有効性について

▶ 良かった点

- ・ 帯活動の積み重ねが、即興的なコミュニケーション能力の育成につながっていた。
- ・ 全ての場面で相手意識のあるコミュニケーションが行われていた。
- ・ 相手意識のあるコミュニケーションを行うことで、間違いを恐れ
ない雰囲気づくりができていた。
- ・ 生徒とのインタラクションで授業が進行していた。

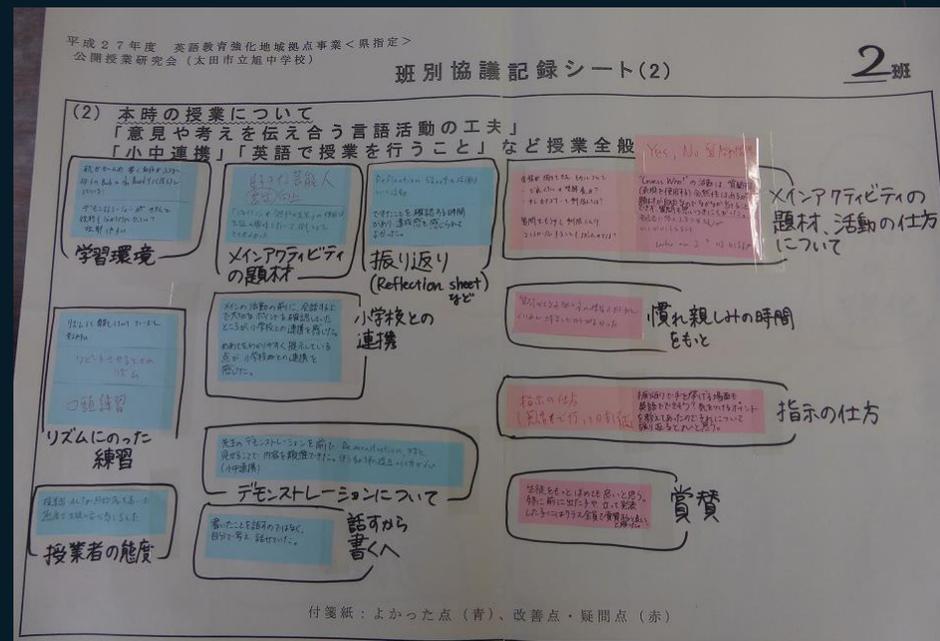
▶ 改善点

- ・ 発話できる表現の量を増やす必要がある。
- ・ 正確性を養う場面を考える必要がある。



公開授業の振り返り よかった点や改善点等について

- ▶ 公開授業でのよかった点や改善点を出し合い、付箋紙に書いて記録用紙にまとめた。公開授業を通して、参加者自身の授業を振り返ることもできた。



参加者の感想（授業について）

- ▶ 生徒たちの楽しく英語を活用する様子が見られた。「相手意識」や必然性のある場面設定は勉強になった。早速実践したい。
- ▶ 生徒とのやり取りが豊富で、生徒も先生も楽しんでおり、「本当の意味での英語のやり取り」がされていた。
- ▶ マッピングメモが、よいThinking Toolになっていた。
- ▶ 教師の役割分担が明確で、それぞれの授業への関わり方や生徒との関わり方がよかった。
- ▶ 十分な会話をを行ったことを、書く指導に生かしていることは参考になった。
- ▶ 日本人同士のTTの工夫がすばらしく、大変参考になった。
- ▶ メモをとったキーワードから文を作成するreproductionの活動は難易度は高いが、たくさんの技能の統合であり、非常に有効的であった。

次年度に向けて

- ▶ 思いや考えを相手に伝えたり、問答したりするなど、5領域を統合した言語活動中心の授業実践
- ▶ 自然なやり取りが行われるような場面設定の工夫
- ▶ 小中連携を十分に意識した指導
- ▶ パフォーマンステストの見直し